

# チベット語関連 T<sub>E</sub>X の新機能

福田洋一 (<http://tibet.que.ne.jp/>)

2003 年 10 月 25 日・第 51 回日本西藏学会大会

## 1 TiB<sub>T</sub>E<sub>X</sub> Package に関する機能追加

TiB<sub>T</sub>E<sub>X</sub> Package では、チベット語を T<sub>E</sub>X 用の命令に変換する際の組み合わせを予めプログラムの中にデータとして持っているため、そのデータにない組み合わせの文字は変換することができない。もとになっている Tibetan Language Kit for Macintosh 用の Drepung (Kailasa) フォントでは、もう少し自由度の高い組み合わせが可能である。そこで、ユーザーが必要な組み合わせを自分で探し、指定するための仕組みを作った。ただし、現在は MacOSX でのみ検証しているため、他の OS での動作確認は今後の課題である。また基本的には、コマンドラインでコマンドをタイプして動かすので、手順はやや煩雑である。

1. まず、普通に `tibtexconv.pl <.tib ファイル>` というようにして `.tib` から `.tex` への変換をする。すると `.err` という拡張子のついたファイルができる。ここには変換できなかった組み合わせが列挙されている。これらの中には入力ミスの可能性もあるが、誤入力でないとすると、組み合わせの情報が TiB<sub>T</sub>E<sub>X</sub> Package に不足しているためと考えられる。

2. 新たに追加したいと思う組み合わせの文字をワイリー方式で、カンマで区切りながら、一行に一つの組み合わせで入力したテキストを作る。たとえば、`rbh_ngh.txt` というファイルを

```
r,b,h  
ng,h
```

のような内容で作る。

3. コマンド・プロンプトで、`preview_combination.pl rbh_ngh.txt` と入力する。すると、それぞれの文字の組み合わせの可能性を列挙した `.tex` ファイルが生成され、それがコンパイルされ、プレビューア (MacOSX の場合、`.dvi` ファイルは、PDF に変換されるので、Acrobat Reader) が起動する。
4. 二つの文字ごとに、可能な組み合わせが列挙されているので、そのなかから、適当な組み合わせを探す。三つ以上の文字を縦組みにする場合でも、上下二文字ずつの組み合わせが表示されるので、それらの中から、うまくマッチする組み合わせを選ぶ必要がある。
5. 組み合わせが決まったら、それを次のような形式で、適当なテキストファイル (たとえば、`rbh_ngh_tibtex.txt`) を作る。

```
r,b,h => \rba,\hata  
ng,h => \ngaU,\haU
```

6. これを、コマンドプロンプトで、`convert2escchar.pl rbh_ngh_tibtex.txt` のようにして処理すると、`newbcombination.pm` という Perl スクリプトができる。これを処理しようとしている `.tib` のあるディレクトリに入れておくと、`tibtexconv.pl` が作業中のディレクトリにある `newbcombination.pm`

を追加読み込みして、新しく組み合わせの情報を追加してくれる。

このように書くと面倒なように思えるが、何もしないに組み合わせを探すのは、極めて面倒なので、かなりの省力化になっている。現在は、MacOSX 用のパッケージのみを作っている。他のプラットフォーム用のもの、および英語のマニュアルなどは順次作成し、公開する。

なお、現在、Tibetan Language Kit for Macintosh の MacOSX 対応版のためのフォントを作成中である。これは Unicode 用の OpenType フォントになる予定であり、これを年度内に公開したのち、この新しいフォントを TiBTeX 用に利用できるように改良する予定である。

## 2 サチエー用のスタイルファイル

「A1B2C3 何々」といったサチエーをセクション等と同じような見出しとして処理するためのスタイルファイル。目次も、サチエーの段階に合わせて自動的にインデントして作成できる。使い方は

```
\sacbad{C1}{A1B1C1}[gzhan lugs dgag pa]{gzhan lugs dgag pa (D 19b2-20b4)}
```

1. 第一引数は、サチエーの段下げを処理するために、サチエーの記号の末尾のアルファベットと数字指定する。これは目次のサチエー記号にも使われる。
2. 第二引数は、本文でのサチエー記号。上では、トップの A1 からの全てのアルファベットを挙げたが、それは必須ではない。この引数は単にそのまま表示され、処理を加えられないので、第一引数と同様、最後のアルファベット部分だけでもよい。
3. 第三引数は、オプションで、目次の見出しを本文の見出しと変えたい場合に、[ ] に入れて指定する。
4. 第四引数は、本文でのサチエーの見出し部分。

本文でサチエーが連続する場合には、行間が空きすぎるので、連続する二行目以降のサチエーには、`\sacbad*` というようにアスタリスクを入れると、行の空きすぎを抑制することができる。

## 3 KH 方式サンスクリット文字転写用のスタイルファイル

`\KH` の中に KH 方式で転写したサンスクリット語を入力しておくと、特種符号付きで打ち出すことができる。KH 方式に対する拡張として、その文字の前に `^` を付けておくと、その文字を大文字にすることができる。

## 4 参考：TLK から Unicode への変換

`tlk2uni.py` は、Python を使ったコマンドラインツールで、Tibetan Language Kit for Macintosh で入力された MacTibetan エンコーディングのテキストを、Unicode (UTF-8) エンコーディングのテキストに変換する。ASCII の範囲の英語が入っていても問題ないが、日本語が混在しているとうまく行かない。日本語を UTF-8 に変換することまでは対応していない。これは TLK の MacOSX 対応版（名称は変わるようになるだろう。）のためのユーティリティなので、そのリリースを待って公開することになる。